

要援護高齢者等実態調査の結果

介護保険制度の実施に向けて

介護保険制度は、介護を社会全体で支え、利用者の希望を尊重した総合的なサービスが安心して受けられる仕組みを創出とするものです。市では、来年4月から施行される介護保険制度に向け、40歳以上の市民のかたを対象に健康状態や今後どのようなサービスを希望しているかなどについて調査を行いました。ご協力ありがとうございました。この調査結果を基礎資料として、平成11年度は介護保険事業計画の策定ならびに老人保健福祉計画の見直しを進めます。また、計画策定に当たっては各地域ごとに制度概要の説明会を実施するとともに、懇談会などの場を設け、皆さんとともに取り組んでまいります。

1 高齢者一般調査

65歳以上のかた5千名のうち3千479名から、また軽費老人ホーム、ケアハウスの入所者70名から回答が得られました。

1 家族について

家族人員は2人が最も多く39・9%でした。また、近くに住んでいる子どもの状況は、狭山市と隣接している市までの範囲が74・5%と多く、容易に行き来のできる場所に子どもが住んでいます。

2 健康状態について

健康で、普通に暮らしているとの回答が80・3%でした。

3 健康管理について

普段、健康に気を使っているとの回答が92・7%ありました。気を使っている内容で最も多いことは、食事の80・3%でした。(表1)

4 日常生活の状況について

ほとんどの項目について、支障ないとの回答が圧倒的多数を占めていますが、記憶力については57・9%と低い数値になっています。(表2)

5 社会活動について

現在していることでは旅行が23・1%と最も高く、趣味の会等仲間うちの活動22・3%、近所づきあい18・7%の順でした。また、生きがいを感じていることでは趣味の会等仲間うち

健康管理について気を使っていること(表1)

項目	高齢者一般調査	若年一般調査
食事	80.3%	83.8%
運動	54.2%	55.4%
休養	45.2%	43.9%
規則的な生活	57.3%	52.1%

日常生活の状況に支障のない人の割合(表2)

	高齢者一般調査		若年一般調査
移動	85.3%	食事	90.6%
排泄	93.0%	入浴	91.6%
着替え等	91.8%	買い物	82.0%
調理	72.8%	掃除・洗濯	77.8%
意志の疎通	86.9%	記憶力	57.9%

将来どのような介護を受けたいか(表3)

介護の方法	高齢者一般調査	若年一般調査
自宅で家族など中心の介護を希望	31.9%	14.1%
自宅で公的サービスも利用したい	31.8%	48.8%
老人ホームや病院などに入りたい	20.7%	21.3%
わからない	15.6%	15.8%

6 介護サービスについて

将来どのような介護を受けたいかは、自宅で家族などを中心に介護してほしいとの回答が31・9%、自宅での公的な保健や福祉のサービスも活用したいが31・8%、合計で63・7%の人が在宅での介護を希望しています。(表3)また、高齢者への援護活動については、すでに参加しているが7・0%、今後参加したい7・8%、でき

7 保健福祉サービスについて

今後利用したいサービスは、基本健康診査の31・3%が最も高く、がん検診27・7%、理髪サービス22・8%、訪問介護22・4%の順でした。一方、ケアハウス11・3%、有料老人ホームでの介護8・8%など施設への入所を伴うサービスについては、比較的利用意向が低くなっています。

2 要援護高齢者在宅調査

市で把握している援護等の必要な在宅の65歳以上のかた702名のうち

うち627名から、また、高齢者一般調査の結果、援護等が必要であると思われるかた174名のうち140名から回答が得られました。

調査項目	市で既に把握している援護等の必要な在宅の65歳以上のかた	高齢者一般調査の結果により援護等が必要と思われるかた
性別	女性69・1%・男性30・9%	女性67・9%・男性32・1%
痴呆が覆たきりの状態	1年以上3年未満5年以上	5年以上1年以上3年未満
日常生活の状況	入浴に支障がある移動に支障がある着替え等に支障がある	移動に支障がある入浴に支障がある記憶力に支障がある
介護者	同居の子ども 子どもの配偶者 配偶者	同居の子ども 子どもの配偶者 配偶者
介護者が介護で困っていること	心身の負担が大きい もつとショートステイやデイサービスを利用したい	心身の負担が大きい もつとショートステイやデイサービスを利用したい
保健福祉サービスの利用状況	在宅介護支援センター等での相談 日常生活用具の貸与等 日帰り介護	基本健康診査 日常生活用具の貸与等 がん検診
保健福祉サービスの利用意向	在宅介護支援センター等での相談 日常生活用具の貸与等 日帰り介護	日常生活用具の貸与等 訪問介護 基本健康診査
	48・54 ・4 %	33・34 ・6 %
	61・7 %	44・3 %
	39・6 %	13・6 %
	42・8 %	14・3 %
	48・6 %	26・4 %
	21・0 %	5・6 %
	39・1 %	19・6 %
	25・8 %	14・8 %
	27・2 %	16・4 %
	35・2 %	49・2 %
	65・4 %	65・7 %
	67・0 %	82・1 %
	74・1 %	82・1 %
	28・9 %	28・9 %
	45・6 %	41・0 %

3 要援護高齢者施設調査

特別養護老人ホーム、養護老人ホームの入所者166名を対象に調査を実施しました。

1 入所者の状況について
入所者の人数は、市内の3施設さ

やま苑、むさしの園、つつじの園に入所しているかたが全体の54・3%

を占めています。また、女性の割合は、82・3%でした。入所年数は、5年以上が最も多く40・9%でした。

2 健康状態について
屋内での生活にはほとんど支障な

いとの回答が最も多く38・9%、ついで一日中寝床で過ごし、食事、排泄、着替えに介助を必要とするが28・4%でした。

3 日常生活の状況について
入浴に支障があるが最も多く89・1%、ついで着替え等に支障があるが83・8%でした。

4 痴呆について
なしが最も多く34・3%、ついで日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とするが27・1%でした。

5 介護の希望について
今後も病院等を含む施設への入所を希望しているかたの割合は89・2%で、要援護高齢者自らが施設での介護を望んでいます。

4 若年一般調査

40歳以上65歳未満のかた1千500名のうち、711名から回答が得られました。

1 家族について

家族人員は4人が最も多く29・3%、家族形態は夫婦と単身の子どもが61・1%と最も多くなっています。

2 健康状態について
病気や障害のために支障があり、

介助が必要と回答したかたは0・3%でした。

3 健康管理について
普段、健康に気を使っているとの回答が87・5%でした。気を使っている内容で最も多いことは食事の83・8%でした。(表1)

4 社会活動について
生きがいを感じていることでは旅行が15・6%、今後してみたいことも旅行が38・1%と最も多くなっています。

5 介護サービスについて
将来どのような介護を受けたいかは、自宅で公的な保健や福祉のサービスも活用したいとの回答が48・8%で、ついで老人ホームや病院などに入所(入院)したいが21・3%でした。(表3)また、高齢者への援護活動については、すでに参加しているが4・4%、今後参加したい18・6%、できれば参加したい33・2%で、合計で56・2%の人が高齢者への援護活動に参加する意向があります。

6 保健福祉サービスについて

基本健康診査、がん検診、成人歯科検診は、半数以上の人が今後利用したいという意向を持っています。

問い合わせ介護保険準備室
へ内線1551